Also available daily on the internet!!
http://qt.swim.org/user_dir/japanlife/user_print_web.php

Devotional Guide

ディーヴォガイド

Nagoya Glorious Chapel

2025.3.31-4.6

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

Family Worship

礼拝メッセージフィードバック

＜今日の聖書箇所は…＞

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

Cell Group Guide

セル　ガイド

①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様をあがめます。
②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合いましょう。
③ディボーションの分かち合いをします。
④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。 いつもの家族でいいのです。

①この１週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
②この１週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）１つだけ。
③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
④互いの必要のために祈りましょう。

L T G Guide

ＬＴＧ ガイド

①お互いへの感謝と誉めることを分かち合いましょう。（２～３つ）

②１週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。

③礼拝メッセージの分かち合いをします。
　礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディボーションの分かち合い（なるべく短く）

④預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

Nagoya Glorious Chapel

31日　月曜

民数

7:10 祭壇に油注ぎが行われた日に、族長たちは祭壇奉献のためのささげ物を献げた。族長たちが自分たちのささげ物を祭壇の前に近づけたとき、
7:11 【主】はモーセに言われた。「族長たちは一日に一人ずつの割合で、祭壇奉献のために彼らのささげ物を献げなければならない。」
7:12 最初の日にささげ物を献げたのは、ユダ部族のアミナダブの子ナフションであった。
7:13 そのささげ物は、聖所のシェケルで重さ百三十シェケルの銀の皿一枚、七十シェケルの銀の鉢一つ。この二つには穀物のささげ物として、油を混ぜた小麦粉がいっぱいに入れてあった。
7:14 また香を満たした十シェケルの金のひしゃく一つ。
7:15 全焼のささげ物として若い雄牛一頭、雄羊一匹、一歳の雄の子羊一匹。
7:16 罪のきよめのささげ物として雄やぎ一匹。
7:17 交わりのいけにえとして雄牛二頭、雄羊五匹、雄やぎ五匹、一歳の雄の子羊五匹。これがアミナダブの子ナフションのささげ物であった。
7:18 二日目にはイッサカルの族長、ツアルの子ネタンエルが献げた。
7:19 彼は、ささげ物として聖所のシェケルで重さ百三十シェケルの銀の皿一枚、七十シェケルの銀の鉢一つを献げた。この二つには穀物のささげ物として、油を混ぜた小麦粉がいっぱいに入れてあった。
7:20 また香を満たした十シェケルの金のひしゃく一つ。

Bible Reference 聖書の記述

7:21 全焼のささげ物として若い雄牛一頭、雄羊一匹、一歳の雄の子羊一匹。
7:22 罪のきよめのささげ物として雄やぎ一匹。
7:23 交わりのいけにえとして雄牛二頭、雄羊五匹、雄やぎ五匹、一歳の雄の子羊五匹。これがツアルの子ネタンエルのささげ物であった。
7:24 三日目は、ゼブルン族の族長、ヘロンの子エリアブ。
7:25 そのささげ物は、聖所のシェケルで重さ百三十シェケルの銀の皿一枚、七十シェケルの銀の鉢一つ。この二つには穀物のささげ物として、油を混ぜた小麦粉がいっぱいに入れてあった。
7:26 また香を満たした十シェケルの金のひしゃく一つ。
7:27 全焼のささげ物として若い雄牛一頭、雄羊一匹、一歳の雄の子羊一匹。
7:28 罪のきよめのささげ物として雄やぎ一匹。
7:29 交わりのいけにえとして雄牛二頭、雄羊五匹、雄やぎ五匹、一歳の雄の子羊五匹。これがヘロンの子エリアブのささげ物であった。
7:30 四日目は、ルベン族の族長、シェデウルの子エリツル。
7:31 そのささげ物は、聖所のシェケルで百三十シェケルの銀の皿一枚、七十シェケルの銀の鉢一つ。この二つには穀物のささげ物として、油を混ぜた小麦粉がいっぱいに入れてあった。
7:32 また香を満たした十シェケルの金のひしゃく一つ。
7:33 全焼のささげ物として若い雄牛一頭、雄羊一匹、一歳の雄の子羊一匹。
7:34 罪のきよめのささげ物として雄やぎ一匹。
7:35 交わりのいけにえとして雄牛二頭、雄羊五匹、雄やぎ五匹、一歳の雄の子羊五匹。これがシェデウルの子エリツルのささげ物であった。
7:36 五日目は、シメオン族の族長、ツリシャダイの子シェルミエル。
7:37 そのささげ物は、聖所のシェケルで百三十シェケルの銀の皿一枚、七十シェケルの銀の鉢一つ。この二つには穀物のささげ物として、油を混ぜた小麦粉がいっぱいに入れてあった。
7:38 また香を満たした十シェケルの金のひしゃく一つ。
7:39 全焼のささげ物として若い雄牛一頭、雄羊一匹、一歳の雄の子羊一匹。
7:40 罪のきよめのささげ物として雄やぎ一匹。
7:41 交わりのいけにえとして雄牛二頭、雄羊五匹、雄やぎ五匹、一歳の雄の子羊五匹。これがツリシャダイの子シェルミエルのささげ物であった。（89節まで略

これだけのものが、（出エジプトにあるように）進んでささげられたものであることは、主の栄光です。そのようにささげましょう。
聖書を記した記者が、これだけのものを記しました。聖霊によらなければ、飽き飽きしたことでしょう。人々の信仰のわざは神の栄光を表わすから、記したのでしょう。他の人の善きわざを覚え、徳を話題にしましょう。

①神のみこころは？　②どんな思いになりましたか？　③生き方にどう適用しますか？　④この世にあって何を実践しますか？

1日　火曜

民数

8:1 【主】はモーセに告げられた。
8:2 「アロンに告げよ。『あなたがともしび
皿を載せるとき、七つのともしび皿が燭台の
前を照らすようにしなさい』と。」
8:3 アロンはそのようにした。【主】がモー
セに命じられたとおりに、燭台の前に向けて
ともしび皿を載せた。
8:4 燭台の作りは次のとおりであった。それ
は金の打ち物で、その台座から花弁に至るま
で打ち物であった。【主】がモーセに示され
た型のとおりに、この燭台は作られていた。
8:5 【主】はモーセにこう告げられた。
8:6 「レビ人をイスラエルの子らの中から
取って、彼らをきよめよ。
8:7 あなたは次のようにして彼らをきよめな
ければならない。罪のきよめの水を彼らにか
ける。彼らは全身にかみそりを当て、その衣
服を洗い、身をきよめる。
8:8 そして若い雄牛と油を混ぜた小麦粉の穀
物のささげ物を取る。あなたはまた別の若い
雄牛を罪のきよめのささげ物として取る。
8:9 あなたはレビ人を会見の天幕の前に近づ
かせ、イスラエルの全会衆を集め、
8:10 レビ人を【主】の前に進ませる。イスラ
エルの子らは手をレビ人の上に置く。
8:11 アロンはレビ人を、イスラエルの子らか
らの奉献物として【主】の前に献げる。これ
は彼らが【主】の奉仕をするためである。
8:12 レビ人は、雄牛の頭に手を置く。そこで
あなたは一頭を罪のきよめのささげ物として、
また一頭を全焼のささげ物として【主】に献
げ、レビ人のために宥めを行う。
8:13 あなたはレビ人をアロンとその子らの前
に立たせ、彼らを奉献物として【主】に献
げる。

Bible Reference 聖書の記述

幕屋の聖所にあるともしびは、聖霊を表わします。聖霊によらなければ、神の臨在を知ることはできません。聖霊によらなければ、どんな礼拝も奉仕も空しくなってしまいます。私たちの努力の目的は何でしょうか。それは聖霊様を受けるために備えるのです。燭台をつくるように聖霊を受けるための生活や心の備えをしましょう。

レビ人は神様の聖なることと救いを表わす奉仕者です。私たちもそのような奉仕をするにあたっては、自分自身をきよめなければなりません。「罪のためのいけにえ」が必要なように、主イエス様の十字架が必要です。赦された罪人であることを認め、謙遜になりましょう。また赦されたことで確信を持って、大胆に主の勝利を信じましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

2日　水曜

民数

8:14 こうして、あなたはレビ人をイスラエルの子らのうちから分け、レビ人はわたしのものとなる。
8:15 この後、レビ人は会見の天幕に入って奉仕をすることができる。あなたは彼らをきよめ、彼らを奉献物として献げなければならない。
8:16 彼らはイスラエルの子らのうちから正式にわたしに与えられたものだからである。すべてのイスラエルの子らのうちで、最初に胎を開いた、すべての長子の代わりに、わたしは彼らをわたしのものとして取ったのである。
8:17 イスラエルの子らのうちでは、人でも家畜でも、すべての長子はわたしのものだからである。エジプトの地で、わたしがすべての長子を打った日に、わたしは彼らを聖別してわたしのものとした。
8:18 わたしは、イスラエルの子らのうちのすべての長子の代わりにレビ人を取った。
8:19 わたしは、イスラエルの子らのうちからレビ人をアロンとその子らに正式に付け、会見の天幕でイスラエルの子らの奉仕をし、イスラエルの子らのために宥めを行うようにした。それは、イスラエルの子らが聖所に近づいて、彼らにわざわいが及ぶことのないようにするためである。」
8:20 モーセとアロンとイスラエルの全会衆は、レビ人に対してそのようにした。【主】がレビ人についてモーセに命じられたことすべてにしたがって、イスラエルの子らは彼らに行った。
8:21 レビ人は身の汚れを除き、その衣服を洗った。そうしてアロンは彼らを奉献物として【主】の前に献げた。またアロンは彼らのために宥めを行い、彼らをきよめた。
8:22 この後、レビ人は会見の天幕に入って、アロンとその子らの前で自分たちの奉仕をした。人々は【主】がレビ人についてモーセに命じられたとおりに、レビ人に行った。
8:23 【主】はモーセにこう告げられた。
8:24 「これはレビ人に関わることである。二十五歳以上の者は、会見の天幕の奉仕の務めを果たさなければならない。
8:25 しかし、五十歳からは奉仕の務めから退き、もう奉仕してはならない。
8:26 その人はただ、会見の天幕で、自分の同族の者が任務に当たるのを助けることはできるが、自分で奉仕をしてはならない。あなたはレビ人に、彼らの任務に関してこのようにしなければならない。」

イスラエルがエジプトから脱出するために、その地の初子が全て殺されました。（そこまでしなければエジプト王はイスラエルを去らせなかったからです。）しかし、小羊の血という代価によって、イスラエルの初子は救われました。これはイエス様の代価によって、私たちが救われたことの型です。

ですから主は「わたしがすべての長子を打った日に、わたしは彼らを聖別してわたしのものとした。」と言われます。これもまた、イエス様の代価によって生かされた私たちは買い取られたということであり、主のものであるということの型です。

その代価をイスラエルの人々が決して忘れないために、「初子はわたしのもの」として主が宣言なさるのです。ただし、長男が家庭から取られるなら家庭が成り立たなくなってしまいますので、その代わりにレビ人が取られるのだと理解できます。「わたしは、イスラエルの子らのうちのすべての長子の代わりにレビ人を取った。」というとおりです。レビ人の奉仕によって、イスラエルの人々は、自分たちが主の救いに預かったこと、自分たちが主のものであることを思い出したのでしょう。

私たちも主のものであることを決して忘れないようにしましょう。イスラエルがこれを忘れたとき、神に背き苦しみに遭ったのです。

23 節以降を見ましょう。レビ人の働きは主のものですが、人間としての現実も考慮されていました。次世代を育てたのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

3日　木曜

民数

9:1 エジプトの地を出て二年目の第一の月に、【主】はシナイの荒野でモーセに告げられた。
9:2 「イスラエルの子らは、定められた時に、過越のいけにえを献げよ。
9:3 あなたがたはこの月の十四日の夕暮れ、その定められた時に、それを献げなければならない。それについてのすべての掟とすべての定めにしたがって、それをしなければならない。」
9:4 モーセがイスラエルの子らに、過越のいけにえを献げるように告げたので、
9:5 彼らはシナイの荒野で第一の月の十四日の夕暮れに過越のいけにえを献げた。イスラエルの子らは、すべて【主】がモーセに命じられたとおりに行った。
9:6 しかし、人の死体によって汚れていて、その日に過越のいけにえを献げることができなかった人たちがいた。彼らはその日、モーセとアロンの前に進み出た。
9:7 その人たちは彼に言った。「私たちは、人の死体によって汚れていますが、なぜ、イスラエルの子らの中で、定められた時に【主】へのささげ物を献げることを禁じられているのでしょうか。」
9:8 モーセは彼らに言った。「待っていなさい。私は【主】があなたがたについてどのように命じられるかを聞こう。」
9:9 【主】はモーセにこう告げられた。
9:10 「イスラエルの子らに告げよ。あなたがたのうち、またはあなたがたの子孫のうちで、人の死体によって身を汚している者、あるいは、遠い旅路にある者はみな、過越のいけにえを【主】に献げることができる。
9:11 その人たちは、第二の月の十四日の夕暮れに、それを献げなければならない。種なしパンと苦菜と一緒にそれを食べなければならない。
9:12 そのうちの少しでも朝まで残してはならない。また、その骨は折ってはならない。すべて過越のいけにえの掟のとおり、それを献げなければならない。
9:13 身がきよく、また旅にも出ていない者が、過越のいけにえを献げることをしないなら、その人は自分の民から断ち切られる。その人は定められた時に【主】へのささげ物を献げなかったので、自分の罪責を負う。
9:14 もし、あなたがたのところに寄留者が滞在していて、【主】に過越のいけにえを献げようとするなら、過越のいけにえの掟と、その定めとにしたがって献げなければならない。寄留者でも、この国に生まれた者でも、あなたがたには掟は一つである。」

Bible Reference 聖書の記述

過ぎ越のいけにえとは、エジプトから脱出させてくださった主の恵を覚えるためのものです。それはイエス様の十字架のひな型であって、決して忘れてはならないものです。
「しかし、人の死体によって汚れていて、その日に過越のいけにえを献げることができなかった人たちがいた。」とあります。人は死に対して、不用意にこれと関わることはできません。これは永遠の命と永遠の滅びに通じる型でもあるからです。すなわち私たちにとっては、永遠の命がないもの、または永遠の命に反するものとの関わりについては警戒しなくてはならないのです。
しかしまた救いとは、命のない人に命を与えるためですから、汚れた人こそその過ぎ越しの恵にあずかるべきでもあります。そこで神様は、月をずらして第二月にそれをささげなさいといわれました。ここにあわれみがあります。
十字架の救いの厳かさを忘れずに、またそのあわれみと恵によって、主に近づきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

4日　金曜

民数

9:15 幕屋が設営された日、雲が、あかしの
天幕である幕屋をおおった。それは、夕方に
は幕屋の上にあって朝まで火のようであった。
9:16 いつもこのようであって、昼は雲がそれ
をおおい、夜は火のように見えた。
9:17 いつでも雲が天幕から上るときには、そ
の後でイスラエルの子らは旅立った。また、
雲がとどまるその場所で、イスラエルの子ら
は宿営した。
9:18 【主】の命によりイスラエルの子らは旅
立ち、【主】の命により宿営した。雲が幕屋
の上にとどまっている間、彼らは宿営した。
9:19 雲が長い間、幕屋の上にとどまるときに
は、イスラエルの子らは【主】への務めを
守って、旅立たなかった。
9:20 また、雲がわずかの間しか幕屋の上にと
どまらないことがあっても、彼らは【主】の
命により宿営し、【主】の命により旅立った。
9:21 雲が夕方から朝までとどまるようなとき
があっても、朝になって雲が上れば、彼らは
旅立った。昼でも夜でも、雲が上れば旅立っ
た。
9:22 二日でも、一月でも、あるいは一年でも、
雲が幕屋の上にとどまって、去らなければ、
イスラエルの子らは宿営を続けて旅立たな
かった。しかし、雲が上ったときは旅立った。
9:23 彼らは【主】の命により宿営し、【主】
の命により旅立った。彼らはモーセを通して
示された【主】の命により、【主】への務め
を守った。

何という従順でしょうか。主の命令に従うことの模範をここに見ます。なぜ旅立つのか、またなぜ留まるのかは教えられていなくても理解できなくても、イスラエルの人々は従いました。それもあるときは一晩しか留まらずに、またあるときは一年でも留まっていたというのですから、お驚きです。

私たちもそのような信仰を持ちたいと思いますが、それはどこから来るのでしょうか。それは主がいてくださらなければ、自分たちは守られないし勝利できないという、当然の理解から来るものです。私たちも主の守りと勝利を理解しているなら、主に従うしかないでしょう。主に従えない人は、主なしでも生きられると勘違いしているのです。

主の愛と守りを知りましょう。自分でやってきたと勘違いする者ではなく、主に従う者でありましょう。

Bible Reference 聖書の記述

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

5日　土曜

民数

10:1 【主】はモーセにこう告げられた。
10:2 「銀のラッパを二本作りなさい。それを打ち物作りとしなさい。あなたはそれを用いて会衆を召し出したり、宿営を出発させたりしなければならない。
10:3 これらが長く吹き鳴らされると、全会衆が会見の天幕の入り口の、あなたのところに集まる。
10:4 もしその一つが吹き鳴らされると、イスラエルの分団のかしらである族長たちがあなたのところに集まる。
10:5 また、短く吹き鳴らすと、東側に宿っている宿営が出発する。
10:6 二度目に短く吹き鳴らすと、南側に宿っている宿営が出発する。彼らが出発するためには、短く吹き鳴らさなければならない。
10:7 集会を召集するときには、長く吹き鳴らさなければならない。短く大きく吹き鳴らしてはならない。
10:8 祭司であるアロンの子らがラッパを吹かなければならない。これはあなたがたにとって、代々にわたる永遠の掟である。
10:9 また、あなたがたの地で、自分たちを襲う侵略者との戦いに出るときには、ラッパを短く大きく吹き鳴らす。あなたがたが、自分たちの神、【主】の前に覚えられ、敵から救われるためである。
10:10 また、あなたがたの喜びの日、あなたがたの例祭と新月の日に、自分たちの全焼のささげ物と交わりのいけにえの上にラッパを吹き鳴らすなら、あなたがたは自分たちの神の前に覚えられる。わたしはあなたがたの神、【主】である。」

Bible Reference 聖書の記述

二本のラッパとは、神のみ旨を表わすものの相補性を意味するのかもしれません。聖書と聖霊、聖書の旧約と新約、きよめと行いなど様々なものが考えられるでしょう。主のみ旨は確かなので、検証に耐えうるものです。信頼してゆきましょう。

ラッパとは瞬時に全体に聞こえるもので、すぐに従う必要があるときに用いられます。主への従順はすぐに従うところにあります。自分のうちに響く、ラッパのような主のみ旨は何でしょうか。

「自分たちの全焼のささげ物と交わりのいけにえの上にラッパを吹き鳴らすなら、あなたがたは自分たちの神の前に覚えられる。」とあります。いけにえは主の赦しと救いに必要なものであって、重要なものであることは当然です。そしてその救いの事実は、ラッパという緊急性と従順を表す響きが伴って、生きたものとなるです。

ですから、罪赦されて救われたという事実の上に、私たちは従順に従うという生き方を加えたいものです。そうすれば「あなたがたは、あなたがたの神の前に覚えられる。」とあるのですから。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

6日　日曜

民数

10:11 二年目の第二の月の二十日に、雲があかしの幕屋の上から離れて上った。
10:12 それでイスラエルの子らはシナイの荒野を旅立った。雲はパランの荒野でとどまった。
10:13 彼らは、モーセを通して示された【主】の命により初めて旅立った。
10:14 まず初めにユダ族の宿営の旗が、その軍団ごとに出発した。軍団長はアミナダブの子ナフション。
10:15 イッサカル部族の軍団長はツアルの子ネタンエル。
10:16 ゼブルン部族の軍団長はヘロンの子エリアブ。
10:17 幕屋が取り外され、幕屋を運ぶゲルション族、メラリ族が出発。
10:18 ルベンの宿営の旗が、その軍団ごとに出発。軍団長はシェデウルの子エリツル。
10:19 シメオン部族の軍団長はツリシャダイの子シェルミエル。
10:20 ガド部族の軍団長はデウエルの子エルヤサフ。
10:21 聖なるものを運ぶケハテ人が出発。なお、幕屋は、彼らが着くまでに建て終えられることになっていた。
10:22 また、エフライム族の宿営の旗が、その軍団ごとに出発。軍団長はアミフデの子エリシャマ。
10:23 マナセ部族の軍団長はペダツルの子ガムリエル。
10:24 ベニヤミン部族の軍団長はギデオニの子アビダンであった。
10:25 ダン部族の宿営の旗が、全宿営のしんがりとして軍団ごとに出発。軍団長はアミシャダイの子アヒエゼル。
10:26 アシェル部族の軍団長はオクランの子パグイエル。
10:27 ナフタリ部族の軍団長はエナンの子アヒラ。
10:28 以上がイスラエルの子らの軍団ごとの出発順序であり、彼らはそのように出発した。
10:29 さて、モーセは、彼のしゅうとミディアン人レウエルの子ホバブに言った。「私たちは、【主】が与えると言われた場所へ旅立つところです。私たちと一緒に行きましょう。私たちはあなたを幸せにします。【主】がイスラエルに良いことを約束しておられるからです。」
10:30 彼はモーセに答えた。「私は行きません。私の国に、私の親族のもとに帰ります。」
10:31 するとモーセは言った。「どうか私たちを見捨てないでください。というのは、あなたは、私たちが荒野のどこで宿営したらよいかご存じで、私たちにとっては目なのですから。
10:32 私たちと一緒に行ってくだされば、【主】が私たちに下さるはずのどんな良きものも、あなたにお分かちできます。」
10:33 こうして、彼らは【主】の山を旅立ち、三日の道のりを進んだ。【主】の契約の箱は三日の道のりの間、彼らの先に立って進み、彼らが休息する場所を探した。
10:34 彼らが宿営から出発する際、昼間は【主】の雲が彼らの上にあった。
10:35 契約の箱が出発するときには、モーセはこう言った。「【主】よ、立ち上がってください。あなたの敵が散らされ、あなたを憎む者が、御前から逃げ去りますように。」
10:36 またそれがとどまるときには、彼は言った。「【主】よ、お帰りください。イスラエルの幾千幾万もの民のもとに。」

イスラエルが旅立つときの手順についても、神様の規定がありました。このように主の命令には秩序があります。それは群れの前進のためでもあります。共同体の秩序にも従いましょう。

またモーセはしゅうとに同行を願いました。主の役に立つ働き人は、家族などの身近な者が協力するほどに人間関係が練られた人であるのです。人間関係、特に自分自身の評判や責任の点において、自分の日常を省みましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？